1．環境調整技術

項目			評価基準	到達目標	入職時	1ヶ月		3ヶ月		6ヶ月		1年		2年	
					自己	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者
1）療養環境調整	（1）温度・湿度	①	衣服の調節ができる。（暖房のないトイレ、洗面所への移動時にはガウンを羽織る）	1											
		②	室内の温度・湿度・気流の調節ができる。（窓の開閉などによる）												
		③	暖房・冷房による調節ができる。												
		④	冷えすぎや暖めすぎに注意し、湿度を適正に保つことができる。												
	（2）換気・通風	①	窓を開け計画的な自然換気ができる。	1											
		②	患者に直接外気の刺激を与えないよう配慮できる。												
		③	排泄物や患者の疾患、症状などから発生する特有な臭い（出血、吐物、ドレーン排液などの臭気）の原因になるものを交換・除去できる。												
	（3）採光・照明	①	安静状態や患者の動作に合わせてカーテンでの採光調節ができる。	1											
		②	患者の状態に応じて適切に照明を調節できる。												
		③	夜間は安全を配慮し睡眠妨害にならない程度に照明を調整できる。												
	（4）騒音	①	医療器具や靴音、話し声、ドアの開閉などの騒音に配慮できる。	1											
		②	騒音による弊害と静かな環境への配慮する目的を理解して患者・家族への説明ができる。												
2）病室の環境調整		①	患者に目的と必要性を説明できる。	1											
		②	患者の状態から実施可能か判断できる。												
		③	必要物品を揃えることができる。												
		④	患者に声掛けし、同意と協力を得ることができる。												
		⑤	オーバーテーブル、床頭台、ベッド下、通路、廊下の整理整頓ができる。												
		⑥	患者の状態に合わせて実施ができる。												
		⑦	実施前後に手指消毒ができる。												
		⑧	使用物品の後片付けができる。												
3）ベッドメーキング	（1）ベッドメーキング	①	患者に必要性を説明し、同意と協力を得ることができる。	1											
		②	患者の状態を観察し実施可能か判断できる。												
		③	必要物品を揃えることができる。												
		④	患者の準備および環境を整えることができる。												
		⑤	患者に声掛けし、不安を除去し安心感を高めることができる。												
		⑥	動線・ボディメカニクスを考慮し、能率的に行える。												
		⑦	手順に沿い実施できる。												
		⑧	外観を美しく、しわやたるみがなく、長持ちするようにできる。												
		⑨	枕カバーの口・包布の結び目は、患者が出入りしない側に置くことができる。												
		⑩	ストッパー・ベッド柵・枕灯・ナースコールなどベッド周囲の点検・整備を含めて行うことができる。												
		⑪	患者の体位・寝衣・環境を整えることができる。												
		⑫	感染時は手早く交換し、汚染リネンの処理ができる。												
	（2）臥床患者のシーツ交換	①	患者に必要性を説明し、同意と協力を得ることができる。	1											
		②	患者の状態を観察し実施可能か判断できる。												
		③	ベッドメーキング注意事項③～⑨に準ずる。												
		④	シーツ交換中は患者のバイタルサインの変化やルート類等に注意し、安楽に実施できる。												
		⑤	一人でシーツ交換を行なう場合はベッド柵をして転落を防ぐ。												
		⑥	終了時の患者の状態を観察できる。												
		⑦	ナースコールを手の届く位置へ配置できる。												
		⑧	後片付けと患者私物を元の位置へ配置する等の環境整備ができる。												

2. 食事援助技術

項目		評価基準	到達目標	入職時	1ヶ月		3ヶ月		6ヶ月		1年		2年	
				自己	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者
1）食生活支援	①	患者に介助の必要性を説明できる。	2											
	②	配膳前に食事内容があっているか不足しているものはないか確認できる。												
	③	患者の状態を観察し、食事可能か判断できる。												
	④	患者と治療食（食事内容）の確認ができる。												
	⑤	患者の準備および環境を整えることができる。												
	⑥	患者に声掛けし、同意と協力を得ることができる。												
	⑦	患者の習慣、ペースに合わせた介助ができる。												
	⑧	安全・安楽に手順に沿った食事介助ができる。												
	⑨	患者の体位・環境を整えることができる。												
	⑩	患者の状態を観察できる。												
	⑪	使用物品の後片付け、下膳ができる。												
	⑫	延食の食事保管の方法と注意がわかる。												
	⑬	延食時の食事は適温にして配膳する事がわかる。												
2）食事介助	①	患者に介助の必要性を説明できる。	1											
	②	患者の状態を観察し、食事可能か判断できる。												
	③	患者と治療食（食事内容）の確認ができる。												
	④	必要物品を揃えることができる。												
	⑤	環境を整えることができる。												
	⑥	患者に声掛けし、同意と協力を得ることができる。												
	⑦	安全・安楽に食事介助ができる。												
	⑧	患者の体位・環境を整えることができる。												
	⑨	患者の状態を観察できる。												
	⑩	使用物品の後片付けができる。												
3）経管栄養法	①	患者に必要性と方法を説明できる。	1											
	②	患者の同意と協力を得ることができる。												
	③	指示の確認ができる。												
	④	患者の確認ができる。（誤認しない）												
	⑤	必要物品を揃えることができる。												
	⑥	必要に応じて注入物を温めることができる（わかる）。												
	⑦	患者の準備、体位、および環境を整えることができる。												
	⑧	胃チューブの確認（先端が胃に挿入されている）ができる。												
	⑨	患者が不安なくケアを受けられるよう声掛けができる。												
	⑩	手順に従い安全・安楽に実施できる。（体位・注入物の温度・速度）												
	⑪	注入中・後の患者の状態を観察できる。												
	⑫	注入後、カテーテルを清潔に管理できる。												
	⑬	患者の体位・環境を整えることができる。												
	⑭	使用物品の後片付けができる。												
	⑮	栄養チューブを長期間経鼻的に留置すると刺激されるため、毎日固定の位置を変えたり、チューブを左右の鼻腔に交換することがわかる。												
	⑯	絆創膏による固定は皮膚脂肪が原因となり剥がれ易いため充分な保清と再固定がわかる。												
	⑰	栄養チューブの交換は、種類によって異なる為チェックし交換できる。												
	⑱	注入食により異なるが、室温で12時間以上置くと雑菌が急速に増加し腐敗の原因となるため、溶解後12時間以内に注入する事がわかる。												
	⑲	注入中に下痢、嘔吐が生じた場合医師の指示で濃度を下げ、注入速度をおとす等の対処がわかる。												
	⑳	チューブの自己抜去は、誤嚥性肺炎出現の恐れがあり、自己抜去を未然に防ぐ患者指導がわかる。												
	㉑	意識障害がある患者および、不穏がある患者に対しては家族の理解を得て抑制を考慮することがわかる。												

3. 排泄援助技術

項目		評価基準	到達目標	入職時	1ヶ月		3ヶ月		6ヶ月		1年		2年	
				自己	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者
1）自然排尿・排便援助	（1）排尿援助（尿器）	① 患者に必要性と方法を説明し同意と協力を得ることができる。	1											
		② 患者の確認ができる。（誤認しない）												
		③ 患者の状態に適した物品を準備できる。												
		④ 患者の準備および環境を整えることができる。												
		⑤ 患者に適した体位で実施できる。												
		⑥ 患者が不安なくケアを受けられるように声掛けができる。												
		⑦ 手順に従い安全・安楽に実施できる。												
		⑧ 採尿や蓄尿の必要な患者の場合、その手順がわかる。												
		⑨ 尿器の洗浄方法がわかる。												
		⑩ 患者のプライバシーに配慮できる。												
		⑪ 患者を慌てさせないように、ゆったりした態度で援助できる。												
		⑫ 後片付けが速やかに実施できる。												
		⑬ 患者の体位・環境を整えることができる。												
		⑭ 患者の状態を観察できる。												
	（2）排便援助（便器）	① 患者に必要性と方法を説明し同意と協力を得ることができる。	1											
		② 患者の確認ができる。（誤認しない）												
		③ 患者の状態に適した物品を準備できる。												
		④ 患者の準備および環境を整えることができる。												
		⑤ 便器の保温等への配慮ができる。												
		⑥ 患者が不安なくケアを受けられるように声掛けができる。												
		⑦ 患者に適した体位で実施できる。												
		⑧ 患者のプライバシーに配慮できる。												
		⑨ 手順に従い安全・安楽に実施できる。												
		⑩ 検便等の検査がある場合、その手順がわかる。												
		⑪ 臭気が漂うので速やかに換気できる。												
		⑫ 使用後の便器の洗浄方法がわかる。												
		⑬ 後片付けが速やかに実施できる。												
		⑭ 患者の体位・環境を整えることができる。												
		⑮ 患者の状態を観察できる。												
	（3）ポータブルトイレ	① 患者に必要性と方法を説明し同意と協力を得ることができる。	1											
		② 患者の確認ができる。（誤認しない）												
		③ 速やかに必要物品を揃えることができる。												
		④ 患者の状態に適したポータブルトイレを選択できる。												
		⑤ 患者の準備および環境を整えることができる。												
		⑥ 患者が不安なくケアを受けられるように声掛けができる。												
		⑦ 手順に従い安全・安楽に実施できる。												
		⑧ 患者のプライバシーへの配慮ができる。												
		⑨ 排泄物を溜め置きせず、訪室の度に確認と清潔保持ができる。												
		⑩ 排泄時の飛散を防ぎ、音への配慮等ができる。												
		⑪ 臭気予防専用の消臭液を使用し、排尿便後は速やかに後片付けができる。												
		⑫ 転倒リスクがある患者の介助の注意点がわかる。												
		⑬ 移動や動作が容易となるようポータブルトイレの高さ調節等ができる。												

・
・
・

14. 死亡時のケアに関する技術		到達目標	入職時	1ヶ月		3ヶ月		6ヶ月		1年		2年	
項目	評 価 基 準		自己	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者	自己	指導者
1）死後のケア	① 逝去時の目的・流れ・対応が分かる。	3											
	② 逝去時に必要な声かけを患者・家族に対し適切にできる。												
	③ 処置に必要な物品が準備できる。												
	④ 処置の手順がわかり実施できる。												
	⑤ 搬送経路・お見送りの場所が分かる。												
	⑥ 解剖に関する目的・手順が分かる。												